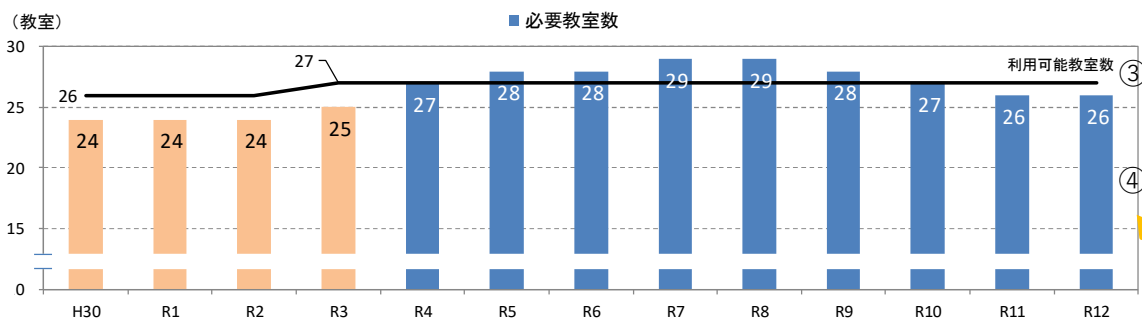
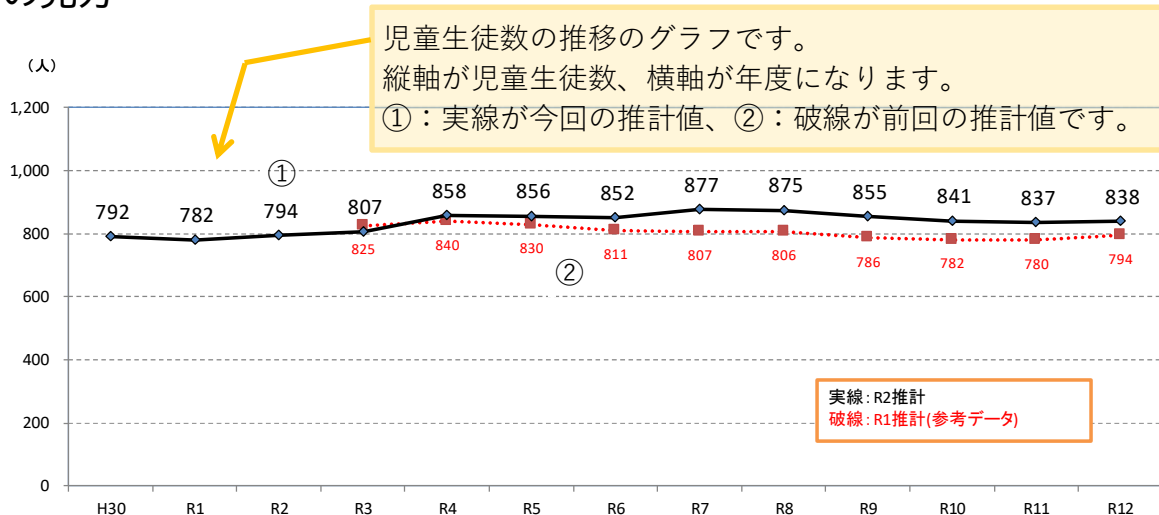


## 推計資料の見方



学年	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
⑤ 児童数	1学年(人)	152	122	123	147	145	142	140	151	136	132	133	138	141
	2学年	122	148	123	123	151	144	141	139	151	135	131	132	137
	3学年	137	123	150	124	141	153	146	143	141	153	137	133	134
	4学年	139	134	125	152	127	142	153	147	143	141	153	137	133
	5学年	116	137	134	125	146	128	143	154	149	144	142	154	138
	6学年	126	118	139	136	148	147	129	143	155	150	145	143	155
	合計	792	782	794	807	858	856	852	877	875	855	841	837	838
⑥ 必要教室数	1学年(クラス)	5	4	4	5	5	5	4	5	4	4	4	4	5
	2学年	4	5	4	4	5	5	5	4	5	4	4	4	4
	3学年	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	4	4	4
	4学年	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	4	4
	5学年	3	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	4
	6学年	4	3	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5
	合計	24	24	24	25	27	28	28	29	29	28	27	26	26
⑦ 利用可能な教室数	26	26	26	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	
教室過不足	+2	+2	+2	+2	0	▲1	▲1	▲2	▲2	▲1	0	+1	+1	

利用可能教室数と各年度のクラス数（学級数）との比較のグラフです。  
縦軸が教室数、横軸が年度になります。

③：黒の実線は、普通教室として利用可能な教室数です。

④：棒グラフは、その年度のクラス数です。

例) R3年度は、利用可能教室数27に対し、25クラスとなります。

学年ごとの児童生徒数及びクラス数（学級数）の推移の表です。

⑤：学年ごとの児童生徒数です。合計は①と一致します。

⑥：⑤に対応する学年ごとのクラス数です。合計は④（棒グラフの値）と一致します。

合計が、「適正規模及び適正配置に関する基本方針」の適正規模の基準に照らし、大規模校の区分に該当する場合は「黄色」、小規模校の区分に該当する場合は「緑色」で表示しています。

また、40人学級で算出した場合を「水色」で表示しています。（35人学級は着色していません。）

⑦：⑥のクラス数に対し、利用可能教室数との過不足を表しています。